

前回 17 回で「この連載が開始されてから 3 年近くの時間が経過しました」と申し上げましたが、あと数回で一区切りとさせていただく予定です。

今回は、この企画の考案者である近藤先生と producer である工藤先生から、査読者からみた優れた論文とはどういうものか、について書いていただきました。皆様が時間とお金をかけて、全力を注ぎ込んでやった研究です。研究は世の人に読んでもらってお役に立ってこそ努力が報われるというものです。そのためには学術的な専門雑誌（今時はネット掲載もあります）などの媒体に登場しなければなりません。一方これらの雑誌は、この雑誌に掲載された論文だから質も高く読んで良かった、と感じてもらいたいわけです。つまり雑誌の側には研究の成果が掲載するに値するかを審査する必要があります。

そうなると論文は査読者に納得される内容である必要があります。納得されるためには、まずは最後まで論文を読んでもらう必要があります。ほとんどの場合査読は無償で、査読者は本来自分のために使いたい時間を割いて、世の中のために「査読」をするわけです。査読者も人間ですし、目的がはっきりしないとか方法論がいいかげんであるなどと感じると、もうその時点で論文を読む気は消えてしまいます。

世のお役に立つような内容を持った論文であっても、書き方が悪くて査読者に嫌がられるようなことがあっては、もったいない話です。さあ、皆さんの書いた論文が世のお役に立つよう、仕上げにもう一踏ん張りして下さい。

日本超音波医学会機器及び安全に関する委員会  
名取 道也

## － その18 － 超音波に関する研究でアクセプトされる論文を書くために － 査読者からの視点－

近藤 隆<sup>1</sup> 工藤 信樹<sup>2</sup>

### 1. 研究論文を書く

超音波に関する研究を行った。興味ある結果も出た。学会発表もした。さてその次はとなると論文投稿です。良い研究とはしっかりした英語論文を書き、公表することです。公表なくして、研究の完結はありません。研究論文を發表することは、大袈裟に言えば“人類の科学歴史上、初めての知見”を報告することになり、発表者はもっと自信を持って良いと言えます。ここでは、アクセプトされる論文執筆について、注意すべき点を挙げてみました (Table 1)。

Table 1 超音波に関する英語論文査読のポイント

- |     |                                  |
|-----|----------------------------------|
| 1.  | 新規性はあるか。                         |
| 2.  | 学術的に重要か。                         |
| 3.  | 臨床応用への可能性は高いか。                   |
| 4.  | 英文タイトルは適切か。                      |
| 5.  | アブストラクトは適切か。                     |
| 6.  | 材料と方法に、十分な超音波実験に関する諸情報が記載されているか。 |
| 7.  | 結果、考察の記載は適切か。                    |
| 8.  | 図表は適切に書かれているか。                   |
| 9.  | 引用文献は必要にして十分か。                   |
| 10. | 結論は簡潔明瞭か。                        |

Takashi KONDO<sup>1</sup>, Nobuki KUDO<sup>2</sup>

Part 18. To write a manuscript acceptable for publication in a field of medical ultrasound – Reviewer's point of view –

<sup>1</sup>富山大学大学院医学薬学研究部 (医学), <sup>2</sup>北海道大学大学院情報科学研究科

<sup>1</sup>Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences, University of Toyama, 2630 Sugitani, Toyama 930-0194, Japan, <sup>2</sup>Graduate School of Information Science and Technology, Hokkaido University, N14W9, Kita, Sapporo, Hokkaido 060-0814, Japan

Received on April 5, 2019; Accepted on April 9, 2019 J-STAGE. Advanced published. date: April 26, 2019